

## 5 「親の学び」講座の組み立て方

「親の学び」講座の組み立て方のポイントです。参考にしてください。

いつ？

### 1 講座開催の機会

①単独で「親の学び」講座を開催する場合

例：後援会の研修会や家庭教育学級、母親の会や父親の会、子育て支援センターの子育て講座の一つとして 等

②他の目的のために集まり、その中の一つとして「親の学び」講座を開催する場合

例：保育参観の後の学級ごとの懇談会や総会 等

どこで？

### 2 参加人数及び講座を行う場所

①参加者は何人か。

②どこ（会場）で行うのか。会場は人数に対して適当な広さか。  
その際、机や椅子の有無はどうか。

③パソコンを使用する場合、広さはどうか。

誰と？

### 3 集団の構成

①同じ年齢の子どもをもつ保護者の集まり

例：学級懇談会 等

②異年齢集団（子ども）の保護者の集まり

例：保護者会総会や家庭教育学級、母親の会や父親の会、子育てサークルや子育て支援センターでの活動の時 等

#### 4 テーマ

何を？

なぜ？

- ①テーマは何をするか。  
(実態やこれまでの受講歴、受講者の希望等を考慮して決める。)
- ②一つのプログラムを行うのか、複数のプログラムの組合せをするのか。

#### 5 講座の設定時間や準備物

どのくらい？

どのように？

- ①単独で「親の学び」講座を開催する場合  
例：45分や60分の講座  
子ども連れが多く、長い時間は難しいと思うので20分間
- ②他の目的のために集まり、その中の一つとして「親の学び」講座を開催する場合  
例：学級懇談会の45分の中の20分間  
総会や役員会、母親の会や父親の会等の中の一コマ 等
- ①準備物は何が必要か。  
(例) 付箋、カード、ワークシート、すごろく、さいころ、場面絵  
パソコン、プロジェクター、スクリーン、筆記用具 等
- ②進行役は誰か。
  - ・講座の計画者が進行する。
  - ・市町村教育委員会生涯学習課等(注1)に、進行役(トレーナー(注2))を依頼する。
  - ・講座の計画者とトレーナーが組んで進行する。

注1：依頼先：各市町村教育委員会生涯学習課、各教育事務所、県教育委員会教育総務局  
社会教育課(以下、「県社会教育課」と言う。)

注2：トレーナーとは、県社会教育課に登録している「親の学び」講座を進行する役。